

苗穂駅周辺地区における住民・企業・行政のパートナーシップ型のまちづくり

山田 諭 札幌市まちづくり政策局都市計画部地域計画課特定地域担当係長

1. はじめに

苗穂駅周辺地区は、JR札幌駅から東へ約2kmに位置し、第2次札幌市都市計画マスタープランでは「高次機能交流拠点」に位置付けられています。

当地区は明治以降「産業と鉄道のまち」として発展しましたが、適切な土地利用更新が図られず、鉄道による南北分断、駅舎のバリアフリー化の未対応、オープンスペースの不足など、課題を有する地区となっていました。

2. 「苗穂駅周辺地区まちづくり計画」の策定

これらの課題を解決するため、平成3年に、地域住民から「苗穂駅北口の開設要望書」が提出されたことを機に、苗穂のまちづくりが始まりました。平成13年には、地域住民や企業が一体となって「苗穂駅周辺まちづくり協議会」が設立され、平成18年には、苗穂駅周辺のまちづくりを具体化する整備構想として、住民・企業・行政の協働により、「苗穂駅周辺地区まちづくり計画」を策定しました。

当計画では、「自由通路の整備と苗穂駅の移転によるまちづくりの核の形成」「苗穂のまちづくりを先導的に推進する周辺の民間再開発の促進」「地区の回遊性を高める道路の整備」などを行うことで、まちづくりを一体的に進めることとしています。当計画の策定後、平成24年に、自由通路、駅前広場、周辺道路などの都市計画を決定し、翌年から苗穂駅の移転橋上化工事に着手しました。

3. 苗穂駅周辺地区におけるパートナーシップ型のまちづくり

工事は、苗穂駅を都心側へ約300m移転し、バリアフリーに対応した橋上駅と南北を結ぶ自由通路を整備するもので、平成30年11月には、自由通路の供用開始とともに、新しい苗穂駅が開業しました。

これらの完成により、北側からも苗穂駅に直接アクセスできるようになり、地域の課題となっていた南北分断が解消されました。また、駅周辺の利便性が向上し、新たなにぎわいの創出が進んでいます。

苗穂駅周辺地区では市街地再開発事業など、民間企業の動きも活発です。北4東6周辺地区市街地再開発事業では、居住、医療・福祉、スポーツ等の機能集積

を図るとともに、自立分散型のエネルギー設備や、隣接する大規模商業施設と接続する空中歩廊の整備などを行いました。

北3東11周辺地区市街地再開発事業では、居住、医療・福祉、商業等の機能集積を図るとともに、苗穂駅に接続する空中歩廊や、建物の屋上緑地などのオープンスペースの整備を行う計画となっており、現在、令和4年度の完成に向けて工事が進められています。

また、苗穂駅周辺地区では地域のまちづくり活動も積極的に行われています。

苗穂駅周辺まちづくり協議会は、地域住民のほか多くの地域企業により構成されており、地域の人々が交流できる「苗穂カフェ」の開設や、まちづくりフォーラムの開催、手作りベンチの設置と維持管理、苗穂産業遺産マップの作成など、これまでに様々なまちづくり活動を重ねてきました。平成26年には、「苗穂駅周辺地区まちづくり計画」の事業化に大きく貢献したことから、まちづくり功労者国土交通大臣表彰を受けました。

4. おわりに

新しい苗穂駅の開業にあわせて、民間企業による大規模な開発事業が進み、苗穂のまちは大きく変わろうとしています。今後も住民・企業・行政のパートナーシップによる苗穂のまちづくりを進めていきます。



写真1 北4東6周辺地区（空中歩廊）



写真2 苗穂駅と北3東11周辺地区